

上越地域初の県立高等特別支援学校、十一月設置

来年度の募集は普通学級だけでなく職業学級も



わっていきます。学校の施設としては最大で12学級120人（3学年全体で）受入れ可能とのことでした。職業学級は一般の会社に就職できることをめざす学級です。県では来年度、上中下越にそれぞれ1学級ずつモデル的に設置することでした。入試は2月10日。今回は職員体制の問題もあり、県立高田養護学校で実施する予定です。

制服もほぼ決定

生徒の制服も地元業者などの声も聞き、ほぼ決まりました。

県立吉川高等特別支援学校の開校支援準備会（小山正昭会長）が19日、吉川コミュニティプラザでありました。県教育庁義務教育課の特別支援教育推進室の赤松さんが学校の設置、耐震化工事などについて報告しました。

校名は県立吉川高等特別支援学校

10月15日の県議会で、学校の設置が正式に決まりました。名称は新潟県立吉川高等特別支援学校です。地元からの提案を参考に決めたいと思います。「吉川」という地名も入って呼びやすいとの説明でした。学校の設置は11月1日。この時点で学校長、事務長が決まります。ホームページも開設されるということです。

来年度の募集は普通学級1学級、職業学級1学級、それぞれ10人程度を予定しているそうです。学級数については特別な支援が必要な生徒がどれくらいになっていくのかによって変

右上の写真をご覧ください。

赤松さんによると、近隣の久比岐高校などとの違いを意識して、紺系のブレザータイプにしたといいます。写真ではよく見えませんが、ズボン、スカートにはいろいろな色が入っています。チェックになって、作業着などにもほぼ決まったと報告がありました。

学校は現在、耐震化等の工事が進められています。請負業者は管理棟がサトウ産業、教室棟が三牧建設工業、体育館が大島組、設備が山田商会、電気は信愛産業です。工事は1



旭ランナーズが大会新

第6回吉川区駅伝大会（旧吉川町時代からの通算では第46回目）が17日、11チームが参加して行われました。全長19.2キロ（9区間）のコース。序盤から早いペースでレースをひっぱった旭ランナーズが1時間5分55秒の大会新記録で優勝しました。

大会の最大の話はリトルチャレンジャーズの参加。吉川小学校5年生がチームをつくってがんばりました。その他、親子、兄弟でレースに参加した人たちも話題に。そして、62歳の木村富士男さん（写真）がまた区間新記録をつくりました。



シリーズ 上越市内の橋 第50回 新箱井橋

「新箱井橋」と書いて「しんはこいばし」と読みます。橋のたもとの方の橋柱には、「志んはこいばし」とあります。全文ひらがな書きでないのはめずらしい。高田の東部、矢代川にかかった橋です。私は高校時代、学業の方はさっぱりでしたが、長距離走は得意でした。一代前の橋は校内マラソンのための練習や本番でよく渡りました。橋からは尾神岳も見えました。それだけで頑張る力が出たものです。橋長は約124メートルあります。竣工は1986年（昭和61年）10月です。

月14日に完了の予定です。生まれ変わった学校の姿を早く見たいものです。写真は工事中の教室棟です。

なんでこんなに楽しいのか。ドングリを目の高さから落として地面にあるドングリに当てる、たったそれだけの遊びなのに、すぐに気持ち乗って夢中になってしまふ。ドングリの「あてっこ」遊びは忘れられない遊びのひとつです。

たまたま、同級生のトラちゃんとはったり会った場所がクヌギの木の下でした。そこでの出来事です。ふたりに話をしていたところに丸いドングリがいくつも落ちていました。話の途中でそれに気づき、一個を拾って、目の高さから地面に転がっている別のドングリに当てようと落としました。

最初ははずれ。それならもう一回と、拾い直して落としました。今度はうまく当たりました。こうなったら、もう一回当てたくなります。何回か繰り返しました。こうしてドングリ遊びに夢中になってしまったのです。それじゃ、一緒にいた同級生のは怒るのではと思われるでしょう。ところが、私のそばにいたトラちゃんもドングリの「あてっこ」遊びに夢中になっていました。いつの間にか、ふたりで遊び、「おもしろいねえ」と顔を見合せて、またぼとり……。

遊びに夢中になってしまったのは、この遊びの面白さ、楽しさを体が覚えているからです。ドングリを拾い、遊んだ時期は小学生のころでした。

私がドングリを拾った場所はハサ場です。わが家のハサ場は家から二〇〇メートルほど離れたところにありました。ハサ場には柿の木、栗の木、それとクヌギの木が数本ありました。そのうちの一本は大人でも抱きかかえられないほど大きな木でした。秋も深くなると、その木の根元のまわりに大小様々なドングリが落ちていました。

当時、小学生であっても、秋の農作業の時は貴重な労働力でした。ハサ場では稲かけ、稲入れ等の手伝いをさせられました。子どもですから、手伝いをしていても遊びのことは頭から離れません。ドングリが落ちていけば、ちよつとした仕事の合間にせつせと集めました。

ドングリの形はほとんどがずんぐり型。でもよく見ると、ひとつひとつ、微妙に形が違います。大きさも直径一センチくらいのもから二センチ以上のものまであります。木から落ちた時期によって色も違いました。私が好きなドングリはビー玉のように丸くて大きなもの。なるべくそれに近いドングリをポケットに詰めたものです。

ズボンであろうが、服であろうが、ポケットさえあれば、そこにドングリを詰めました。ポケットはすぐにいっぱいになりました。忘れることができないのは、ポケットに入ったドングリを手で触った時の感触です。手で触る、かきまわす、それだけでうれしくなったものです。

集めたドングリはもちろん遊びの道具になります。地面で転がす。転がして何かに当てる。上から落とす。ドングリを拾った子どもたちは次から次へと遊びを考え出したのです。そのなかでも一番人気があったのが、ドングリの「あてっこ」でした。自分で拾った最もお気に入りのドングリをポケットに入れて隣の集落に出かけて、「あてっこ」競争を日が暮れるまでやりました。

私とトラちゃんが出会い、遊んだクヌギの木のある場所は山方という集落の入り口です。木の高さは一五メートルはあるでしょう、空に向かって大きく伸びていて、下の方の枝は斜め横にぐんと突き出ている、とてもりっぱな木です。ドングリがなくならないうちにもう一回、「あてっこ」を試してみようと思います。

踊りと演歌をたんのう、仮装には爆笑

いま市内各地で敬老会が行われています。15日、吉川区の敬老会に招かれ参加してきました。会場となったゆったりの郷に集まった人たちは約330人。昨年度よりも45人ほど参加者が増えました。参加者の中で最高齢は大岩の塚田キヨさん、94歳です。「ばあちゃん、きょうの参加者の中でトップだよ」と言うニコニコ顔でした。

式典では主催者を代表して稲荷副市長が登壇、参加されたみなさんの戦前からの働きとご苦労にたいし感謝とお礼の言葉をのべました。来賓祝辞では岩崎副議長が、昨年亡くなられたお母さんのことにふれながら、「健康を大切にしてお長生きを」と励ましました。

私の出番は万歳三唱です。いつも万歳の前に一言添えさせていただいていますが、今回は、小さな子どもがまともに育つ上でじいちゃん、ばあちゃんとのつながりが大切だと訴えました。「ある発達相談員の方から聞いた話だが、子どもの言葉の発達がおかしくなっている。1歳半になっても2歳になっても口から出てくる言葉がとても少ない。また、感情のコントロールができない子どもが増えている。その背景には、子どもとお父さん、お母さんとのつながりが弱い。お父さん、お母さんがいなければ、昔だったら、じいちゃん

やばあちゃんがいた。いまはバラバラになっている家庭が多い。じいちゃん、ばあちゃんがいないと子どもはまともに育たない、人間として成長しない。ぜひ健康に留意して力を貸してほしい」と訴えました。

式典後のアトラクション。ゆったりの郷従業員のみなさんによる「ゆったりの郷歓迎太鼓」で開幕しました。その後は踊りと演歌です。踊りでは区内のアカデミーの会の方々などが見事な踊りを披露しました。最後はゆったりの郷従業員のみなさんによるオリジナル舞踊。恒例となった「麦畑」に加え、今年は新たな曲と踊りを披露しました。踊りそのものは炭坑節の踊りだと思えますが、ま、とにかく、仮装が面白かったです。スケベ代表もいれば、オバマ大統領もいました。

